

作成 2025-4-17 岡本雅幸

1. 原詩作者とその生涯

原詩作者アッシジのフランチェスコ(1182-1226)に関する伝記・伝説は数多く残っています。

1182年、裕福な絹商人の家に生まれたフランチェスコは、日々の様々なお祭り騒ぎに身を投じる気ままな青年時代を過ごしました。ところが彼は、兵士として参加した十字軍で捕虜となり、一年間の監禁生活中に病で苦しむ間に、かつての生活への興味を失ってしまいました。

1205年、ローマ巡礼の旅の途中、「行って、崩れ落ちつつある私の家を修復しなさい」とのキリストの幻を見たことが契機となりキリストに倣う決心をしました。

さらに1209年、フランチェスコは彼の人生を決定的に変える説教を聞きました。その説教はマタイ 10:5-13に関するもので、キリストは信者たちに、天国が彼らの上にあることを宣べ伝えて出かけるべきであり、お金はおろか、道中の杖や靴さえも持って行ってはならないと告げています。フランチェスコは生涯清貧の生活を捧げる決意を固めました。

当時少なからぬ聖職者たちが腐敗堕落する中、フランチェスコは粗末な衣服をまとい、裸足で、聖書の教えに従い、杖も袋も持たずに悔い改めを説く旅を続けました。彼が一般の人々に説教をしたことは、許可を得ておらず異例なことでした。そして、壊れた教会を修復し、イエス・キリストにならって病人や貧者に仕えるフランチェスコに人々は次第に共感し、弟子あるいは同志として生活をともにし始めました。

同年フランチェスコは、聖書の一節を引用して、「我らの主イエス キリストの教えに従い、その足跡をたどること」との修道士向け規則を作成し、彼にちなんで名付けられた修道会フランシスコ会を設立し、**1210年**に教皇によって承認されました。

晩年彼は健康を害し辛酸を舐める中、かつて彼の呼びかけに応じた最初の女性、クララ修道女が修道院の庭に建てた小さな小屋で余生を過ごしました。そして、1225年頃、彼は〈太陽の賛歌〉を書きました。これが今日の愛すべき讚美歌(の歌詞)の基となりました。

- ・創造物のすべてに神の手の働きを見出した彼の、神への賛美とハレルヤの思い、
- ・その神の働きに応答するようにとの人々への訴え、
- ・彼の人生を通じて表出された柔和で謙虚、赦しの精神、そして神への絶対の信頼

が漲っています。

彼は死の間際まで大切に愛しいこの歌を何らかのメロディーを伴って歌い、仲間の修道士たちにも側で歌い続けるように依頼し、1226年10月3日の夜、詩編142篇を歌いつつ召天したと伝わります。

彼は、イタリアのカトリックの修道士であり説教者でした。カトリックの司祭に叙階されることはなかったものの、最も良く知られ尊敬されている宗教的人物の一人です。

1228年7月16日、教皇グレゴリウス9世により聖人と宣言され、**動物と環境の守護聖人**として知られます。

2. 讚美歌が辿った道程

この賛美歌の歌詞は、アッシジのフランチェスコ(Francesco d'Assisi、1182-1226)によって、彼の死の直前1225年頃に、詩篇148篇に基づく〈太陽の賛歌〉として最初に書かれました。

この「太陽の賛歌」は、イタリア語(ウンブリア語)で書かれていましたが、当時イングランド国教会の牧師であっ

たウィリアム・ドレイパー (William H. Draper 、 1855-1933) により、

- ・彼の教会の子供たちの聖霊降臨祭のお祝いのために英語にパラフレーズされ、
- ・ 30 年戦争勃発後間もない 1623 年、ドイツのケルンで出版されたドイツ語の讃美歌集 (Geistliche Kirchengesange) に掲載された「いざわれら喜ばん」 (Lasst uns erfreuen) という復活節聖歌の曲 (イースター・ハレルヤ EASTER ALLELUIA)

■ドイツ語讃美歌「 Lasst uns erfreuen 」1625 年版音源

https://en.wikipedia.org/wiki/File:Lasst_uns_erfreuen_herzlich_sehr.mid

なお、この曲は、1525 年にルター派教会で最出版された GENEVAN 68 (ジュネーブ詩篇歌 68) の冒頭等の旋律的に由来しているようです。

■ジュネーブ詩篇歌 68 (Psalm 68 Genevan Psalter)

<https://www.youtube.com/watch?v=BIZ2sXO9PnA>

1906 年のラルフ・ヴォーン・ウィリアムズ (Ralph Vaughan Williams 、 1872-1958) による編曲・和声付けにより英語圏で広く普及しており、今日でもドイツ語のカトリックの賛美歌集「 Gotteslob 」で歌われます。

■ Lasst uns erfreuen herzlich sehr, Halleluja Gotteslobvideo (GL 533) 一節のみ

<https://www.youtube.com/watch?v=3MjImV01InU>

のメロディーと組み合わせられ、1919 年にパブリックスクールの賛美歌集『 Public School Hymn Book 』に初めて掲載されました。そして、今では主にイースターシーズンに歌われることが多いようです。

ドレイパーが翻訳した、と言うよりは言い換えた (paraphrased) このテキストは、事実上すべての英語の賛美歌に登場し、2025 年現在、270 種類の賛美歌の本で使用されているとのこと。

それだけに、もともとは 7 つのスタンザ (節) で構成された歌詞は、現在、節の数は 4 から 7 節、歌詞は数百ものバリエーションがあります。日本語訳讃美歌の歌詞もバラエティー豊かです。

■参考資料

中山昌樹 : <https://ja.wikipedia.org/wiki/中山昌樹>

■収録讃美歌集

讃美歌 75 番 ものみなこぞりて

聖歌 86 番 つくられしものよ

新生讃美歌 125 番「造られしものよ」

教会福音讃美歌 18 番「つくられしものよ」

教会讃美歌 156 番「つくられしものよ」

教会福音讃美歌 18 番「つくられしものよ」 (全七節)

讃美歌 21 223 番「造られたものは」 (全七節)

■ YouTube 上の讃美動画

讃美歌 75 番 伴奏のみ : <https://www.rcj.gr.jp/izumi/sanbi/sa075.html>

讃美歌第 75 番「ものみなこぞりて」 新日本合唱団 : <https://www.youtube.com/watch?v=bvJdmOWCLCw>

【讃美歌75 ものみなこぞりて-日本語歌詞付き】癒しの歌声とパイプオルガンの演奏と共に

<https://www.youtube.com/watch?v=T9B8Gn0ym6g>

新生讃美歌 125 番「造られしものよ」 All Creatures of Our God and King / Linda Hartman ピアノアレンジ

<https://www.youtube.com/watch?v=nMndL24ImrU>

All creatures of our God and King Hymn- Westminster Abbey

<https://www.youtube.com/watch?v=VF12LkUS25c> Westminster Abbey